

## 「ならなぎ」活動報告

報告者： 玉尾 洋一

日時	2025年8月10日（日） 13時～15時30分	天候	曇り一時雨	歴史文化チーム定期活動 音声館
案内団体または催事名	仏像鑑賞入門第1回目		人数	大人： 24名

（敬称略）

出席者：吉川、義田、玉尾洋、中澤、山口、池田、奥山、北川、寺尾、中谷、服部、米村、田中、近野  
山岡、家高、木邨、武田、堀野、辻、久賀田、鳴田、豊田、玉尾ひ

実施内容：13時～15時30分 座学

### ●仏像鑑賞入門 中澤講師

#### ○はじめに

- ・作者：村松哲文 駒沢大学（学生在籍数1万4千人）学長

仏像鑑賞のポイント①自分の好きな仏像を見つける②仏像を見るだけで、制作年代や仏像の種類が分かるようになる③日本の歴史や仏教のつながりが分かるようになる④古代日本と東アジア諸国の関係や影響が分かるようになる⑤自分だけの「仏像鑑賞ポイント」をもてるようになる⑥有名な仏像だけでなく近所にある仏像鑑賞も楽しめるようになる。少なくとも①は選んで欲しい。

#### ・仏像の種類

「如来」「菩薩」「明王」「天部」の4つのカテゴリーがある。

「如来」悟りを開いた者で仏教の開祖・釈迦を表現した釈迦如来や阿弥陀如来がある。欲もすべて捨て去った存在として、衣を1枚か2枚まとっただけの姿。

「菩薩」いつの日か如来になることを約束された存在。如来ほどシンプルな姿ではなく、瓔珞と呼ばれる装身具や冠をつけていることで、如来と区別できる。

「明王」密教系の仏像。怒りが顔や動作で表されている。

「天部」仏教世界を守る役割を与えられている。釈迦の教えには登場しないが、古代インドの神々の姿を拝借して誕生。

- ・釈迦自身は自分の姿を偶像化することを禁じていたが、やがて釈迦像がつくられるようになる。仏像の元祖は釈迦が亡くなって500年後にガンダーラで制作され、顔は西洋風をしていた。

<https://naranagi.jp/butsuzou/index1.html> ガンダーラの仏像

#### ○第一章仏像がやってきた！

- ・佛教伝来 552年説と538年説があるが、現状538年説が有力。百濟の聖明王が伝えた。

- ・現存する最古の仏像 飛鳥大仏（丈六サイズ）。仏師は鞍作止利（司馬達等の孫、司馬達等は娘ら3人を日本ではじめての尼僧 善信尼、惠善尼、禪藏尼として出家させた）。重要文化財（最古であるが修復箇所が多く国宝にはなっていない、国宝へのランクアップを検討中）。

<https://naranagi.jp/butsuzou/index2.html> 飛鳥大仏

- ・法隆寺釈迦三尊像 ご本尊 釈迦如来像の特徴として、方円形の顔で杏仁形（アーモンド形）の目、左右の口角がややあがっている「仰月形」の唇で微笑みの表情（アルカイックスマイル）が挙げられる。真正面から観ると違和感がないが、横から観ると胸板の薄さが目立つ。横から観られることを意識せずに制作した（正面観照性の高い仏像）。

謎・・脇侍は文殊菩薩と普賢菩薩であるが、光背が全体を包んでいない（はみ出ている）。光背を詳しく調べてみると縁に柄穴が26個ある。そこに飛天が付けられていたと想像できる。もう一つの謎は、光背に銘文が刻まれており、その内容は聖徳太子の病気平癒を願った文であるが、亡くなることを想定して「願いかなわくば、速やかに浄土へ渡って欲しい」と記してある。変な文である（聖徳太子暗殺説

)。

670 年に法隆寺が火災に遭い、再建されているが、その時ご本尊は持ち出され無事であった？

火災でお金が燃えたら再建もままならないため、地中に隠し金庫「伏藏」が造られた。

<https://naranagi.jp/butsuzou/index5.html> 法隆寺 伏藏

法隆寺は 607 年用明天皇病氣平癒のために創建され、当時は今現存している薬師如来像がご本尊だった（この像は釈迦三尊像よりも新しいとの説もあり、本尊であったかは疑問視されている）。

<https://naranagi.jp/butsuzou/index3.html> 釈迦三尊像

<https://naranagi.jp/butsuzou/index6.html> 薬師如来像

・飛鳥仏の源流は中国南朝である。理由は袈裟の特長から分かる。インドの僧侶は一枚の布を身体に巻き付けてまとうのが原型であるが、中国は袈裟に加えて下半身をぐるっと一巻する裳を付けていた。その裳が落ちないように胸元で紐を結んでいた。それが忠実に表現されている。また当初は北朝で発見された龍門石窟賓陽中洞の本尊だと思われていたが、後に南朝で南齊永明元年銘弥勒坐像が発見されて、こちらの方が古い。

<https://naranagi.jp/butsuzou/index4.html> 南齊永明元年銘弥勒坐像

●次回開発勉強会「仏像鑑賞入門」2回目。P. 52 救世觀音菩薩立像～

日時：9月 14 日（日）13 時～

場所：音声館

以上

（気になった点、引継ぎ事項）